

■ 学校の共通目標

授業作り	重点	○児童が意欲的に学習に取り組むための、タブレット端末を活用した授業づくりの工夫を行う。	中間評価		最終評価	
		○基礎・基本の定着のための指導方法の工夫を図る。				
環境作り		○学習活動等のきまりを分かりやすく定めて指導を行う。 ○本に親しむ環境づくりを行い、語彙力を高めていく。 ○タブレット端末等も活用して、毎日の家庭学習を定着させる。				

■ 学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析 (10月)	課題 (10月)	改善のための取組 (10月)	最終評価 (2月)	
1	国語					
	算数					
学年	教科	学習状況の分析 (4月)	課題 (4月)	改善のための取組 (4月)	中間評価・追加する取組 (10月)	最終評価 (2月)
2	国語	<p>学漢字の学習や家庭学習の音読の課題に、意欲的に取り組む児童が多い。一方で、タブレット端末とノートを活用した新出漢字の学習の仕方に難しさを感じている児童が多く見受けられる。</p> <p>学短文を書く学習では、読点や句点、拗音や促音、撥音、助詞の使い方に課題がある児童が半数程度いるなど、まだ十分に身に付いていない状況である。</p> <p>学読書活動に対しても、概ね意欲的である。読み聞かせでは、話の内容に興味をもって聞く姿が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 語彙力が十分でないため、言葉集めや文作りに自力で取り組める児童は少ない。身近なことを表す語句の量を増やし、語彙を豊かにすることが必要である。 文を正しく読んだり書いたりする力を伸ばしていく。 間違い探しや迷路、図鑑などを好む児童が多い。文字の多い本は、学級に置いていても手を伸ばす児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で、言葉集めや文作りを一緒に行う。児童が多く言葉を集められそうな新出漢字は、なるべく自力で取り組ませる。1学期中に、新出漢字の学習の仕方を定着させる。 間違いのある文を示し、間違いを見付けて直すなど、児童が楽しみながら取り組むことができる活動を、授業の始めの5分間や、モジュールの時間などに取り入れる。 いろいろな本があることを教え、図書館支援員と連携を図り、本を手に取りやすい環境を整える。 		
	算数	<p>学繰り上がりのある足し算、繰り下がりのあるひき算の計算には時間がかかったり、やり方を忘れてしまっていたりする児童が数名いる。10までのたし算、ひき算は概ね定着している。</p> <p>学文章問題は、平易なものでも自力では読み取ることが難しい児童がいる。</p> <p>学ノートの使い方が定着せず、個別指導を要する児童が数名いる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 指を使わないと計算が難しい児童がいる。繰り上がりや繰り下がりの概念を理解させる必要がある。 問題場面を正しく捉えさせる必要がある。 ノート指導が徹底できていない。ホワイトボードにノートと同じマス目を提示して書いているが、視写が難しい様子も見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日プリントなどで練習を積み重ねていく。繰り上がりや繰り下がりの概念については、半具体物などを使用しながら丁寧に指導していく。 教科書の問題場面を読み解きながら、練習を重ねていく。文章問題を自分で作る活動を取り入れる。 引き続きノートと同じマス目を示しながら丁寧に指導し、1学期中には視写ができるようになることを目指す。 		
3	国語	<p>調区の平均正答率より 22 ポイント下回った。活用問題は 25 ポイント、記述問題は 22 ポイント下回っている。問題に取り掛かるきっかけに時間がかかったり、文章読解ができずに、本題に入れなかったりする児童も多数いる。</p> <p>調「話し手が知らせたいことを落とさないように聞く」の正答率が低く、聞くことに課題のある児童が多いことが分かる。読解に時間がかかり、文章を書く課題まで到達しない児童が多い。</p> <p>学提出される課題やノート、ワークシートへの記入の様子から、書字に困難さを抱えている児童が多数いる。漢字だけでなく、平仮名、片仮名の定着も十分でない。その一方で、夢中で本を読んだり辞書で言葉探しを楽しんだりする児童も多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 国語に対する意欲を高める必要がある。 文字を正しく読んだり、書いたりする力を伸ばしていく必要がある。 文章を読解する力を高めるために、語彙を増やす必要がある。 集中して話を聞く力を高めるとともに、聞く姿勢についても改善していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語に抵抗感をなくすために、言葉集めや聞き取り、書くことを楽しんでも行うミニ遊びの時間をモジュールの時間に設定する。 3行日記を書く活動を継続したり、間違いのある文章(誤字・脱字・ねじれ等)を提示し、間違い探しを行いながら文章を書き換える活動を取り入れたりする。 児童一人一人が国語辞書を手元に持つようにし、授業中に分からない言葉を国語辞典で調べられるようにする。また、学級で調べた言葉を「3の1じてん」とし、教室に掲示する。 姿勢の崩れを改善するため、授業始めのあいさつ時に「姿勢の合言葉」をつくり、実践していく。「話している人を見る」ことを常に意識させたり、話の中心を反復させる活動を取り入れたりする。 		

	算数	<p>調 区の平均正答率より 16 ポイント下回った。領域別で見ると、「測定」では 24 ポイント、「数と計算」では 14 ポイント下回っていることから、算数を苦手としている児童が多いことが分かる。実際に、測定や操作をしながらでないイメージ化することができない児童が多数いる。また、実生活での算数的経験と結び付けていくことが必要である。</p> <p>調 問題内容別では、「ひき算」が 20 ポイント、「長さ・かさ」「時刻と時間」が 23 ポイント下回っている。基礎計算や測定を繰り返し行う必要がある。</p> <p>学 文章を読み取れず、問題を解くことに困難を感じている児童がいたり、「算数」というだけで壁を作り、取り組むことが難しい児童もいたりする。その一方で、算数に興味関心が高く、既習事項から新たな課題を解決しようとすることを楽しむ児童もいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 算数への興味関心を高め、抵抗感を少しでもなくす必要がある。 基礎計算の定着を図る必要がある。 問題を正しく読み取れるようになる必要がある。 算数文具を正しく使えるようになる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数遊びを授業の始めや家庭学習に取り入れたり、児童の興味関心のある事柄から学習問題をつくったりする。 毎日、計算問題の課題プリントを実施する（家庭学習を含む）。また、第 2 学年までの既習内容も取り入れる。 問題文を丁寧に読み解き、図に表したり、場面を劇化したりする活動を取り入れる。 算数文具については、定期的に使い方を確認する時間をとる。また、実際に測定、測量する活動を取り入れ、体験から量の実感を伴えるようにする。 		
	国語	<p>調 「話すこと・聞くこと」以外の全ての領域において区の平均を下回っている。特に「書くこと」は、区の平均を 22.8 ポイント下回っており、文を書くことに課題や苦手意識のある児童が多いことが分かる。日頃の授業の様子からも文章を書くことに前向きでない様子が見られる。「漢字を書くこと」「漢字を読むこと」「言葉の学習」がそれぞれ区の平均より、9 ポイント・9.3 ポイント・18.8 ポイント下回っており、国語における基礎的な学力が不十分なために、文章を書く力が十分に身に付いていないと考えられる。</p> <p>学 授業の様子を見ると、示された課題はこなすが、深く考えることなくとりあえず解答していることが多い。語彙が不足しているので、問題の意味を理解することが難しいこともある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 語彙数を増やす指導を行う必要がある。 説明的文章に触れさせ、文章と文章のつながりや文章構成の特徴を考えたり、そこから筆者の考えを読み取ったりする指導を行う必要がある。 書くことの抵抗感を減らし、書くことの力を付けていく。 主語、述語のつながりや接続語のはたらき、文章の長さを考えさせる指導を行ったり、文章を書く場面を増やしたりする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語辞典を机の横に常備することで、意味が分からない言葉はすぐに辞典を引く習慣をつける。また、簡単な辞書遊びを取り入れて、辞書に親しむことができるようにする。 児童の興味に沿った説明文を授業で扱うことで、興味をもって文章を読む時間を確保する。 毎日、振り返りの日記を書くことで、書くことへの抵抗感を減らす。 手紙など目的をもって文章を書く機会を増やし、力を付けていく。 漢字の学習は毎日定期的に進め、前期には全ての学習を終える。繰り返し練習することに重点を置き、定着を図る。 		
4	算数	<p>調 全ての領域において区の平均値を下回っており、特に「かけ算」で 18.9 ポイントと大きく下回っている。学習の意欲は必ずしも低くなく、学習したその場での理解は一定程度できるが、定着が難しい。特に、九九を含めた計算の基礎的知識や技能の定着が低いために、全ての領域に対して、課題が生じていると考えられる。</p> <p>学 国語でも同様の傾向が見られるが、問題を正しく読み取る力に課題があり、問題場面を自力で正しく読み取る力が身に付いていない。正しく答えを導き出すために、新しい単元の学習と同時に、常に基礎的な計算力を高めるために、ドリル学習や反復学習に取り組むことで、基礎的な学力の定着に重点的に取り組む必要がある。</p> <p>学 四則計算に課題がある。かけ算九九にも時間がかかる。かけ算の筆算においても、繰り上がりの足し算で時間がかかり、正解に結び付かないことが多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な計算力をつける必要がある。 第 3 学年までの四則計算の復習を行いながら、第 4 学年の学習を積み重ねていく必要がある。特に、かけ算九九は急務である。 図形をかく際に必要な用具の扱い方を日常的に指導したり、手先の動きをスムーズに行えるように手先の運動を行ったりする必要がある。 ノートの使い方の指導を続ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数の授業の始めには、必ず基本的な計算練習を取り入れる。（特にかけ算九九） 児童の学力に合わせて、課題を用意する。 タブレット端末のデジタルドリルを活用して、基礎力を付ける。 計算をするときには常に定規を使うなど、日常的に用具を使う経験を積む。 ノートを書く時は、必ず定規を使って線を引くことを徹底する。 ノートの書き方は、見本を貼っておくことで常に意識できるようにする。 		

5	国語	<p>調 区の平均正答率より 4.5 ポイント上回った。特に、「話すこと・聞くこと」「書くこと」では、8 ポイント以上平均正答率を上回っており、身に付いていることが分かる。</p> <p>調 「読むこと」は、区の平均正答率を 2.6 ポイント上回っているとともに、目標値を 10 ポイント以上上回っており、しっかり力が付いていることが分かる。しかし、「説明文の内容を読み取る」はやや区の平均を下回り、苦手としている様子も見られる。</p> <p>調 漢字を読む、書くについては、どちらも区の平均正答率を下回っていることから、苦手としている児童が多く、課題が見られた。</p> <p>学 漢字の学習の様子を見ると、学習した漢字を日常的に使用することができない児童が多く見られる。漢字に触れる機会を多く設定し、漢字自体に興味関心をもつことができる手だてを考える必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見や考えを整理して書くことのできる児童は多いと感じる。さらに論理的に書く力を伸ばしていくために、文章の構成を意識させるよう指導する必要がある。 だいたいの内容を読み取っている児童は多いが、読み取ったことを叙述に沿ってまとめることができるように指導する必要がある。 既習の漢字について正確に書き取る力を伸ばす必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 文学的作品や説明的文章に触れさせ、文章から想像を膨らませる楽しさを味わったり、文章と文章のつながりを考えたり、叙述に沿って内容をまとめたりする学習に取り組む。 読み取りを行う際に、本文を意識させ、順番を整理しながら正確にまとめるよう指導するとともに、短い文章にまとめる機会を増やすなどし、定着を図る。 毎日の家庭学習で漢字の練習に取り組み、文字の練習だけでなく、熟語や短文を作るなどの活動を課し、定着を図る。 実施する漢字小テストで、90%に到達しなかった児童に対して再テストを実施し、繰り返し練習させる。また、デジタルドリルを家庭学習の課題として出し、習熟を図る。 	
	算数	<p>調 「数と計算」「図形」「データの活用」領域は、区の平均正答率も目標値も上回っているため、比較的身に付いていることが分かる。また、昨年度の当初に苦手としていた「図形」「計算」領域は、区の平均正答率を上回ったことから、力が伸びてきていると言える。</p> <p>調 「変化と関係」領域は、目標値は上回っているものの、区の平均正答率より 6.3 ポイント下回っているため、苦手な児童が多く、課題が見られた。</p> <p>学 2つの数量の関係を、もとの大きさの何倍になったかを比べることを苦手としている様子が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 計算の力は着実に付いているので、さらに速く正確に計算する力を伸ばしていく。 グラフや表から、数値の変化の様子や、2数の関係や規則性を意識し、分析できるよう指導する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京ベーシック・ドリルや、デジタルドリルを活用し、前学年までの学習内容の復習を行い、理解の定着を図る。 家庭学習でデジタルドリルを活用し、繰り返し計算などの演習を行うことで習熟を図る。 算数だけでなく、理科や社会の学習でも必要な情報を選び、読み取り、活用して問題解決できるよう指導する。 	
6	国語	<p>調 領域別正答率では全ての領域で、内容別正答率では「漢字を読む」「漢字を書く」を除く全ての項目において、区の平均正答率を下回った。評定別人数比で3が 29.2%であり、区の平均より 20 ポイント以上下回った。意識調査では約半数の児童が学習内容の振り返りができていないと答えており、学年全体の国語の学習方法に課題が見られた。</p> <p>調 「漢字を読む」では正答率が 100%、「漢字を書く」でも目標値を 7.5 ポイント上回っており、学習した漢字の読み書きが確実に定着をしている様子が見られる。</p> <p>学 提出される課題やワークテストの状況を見ると、漢字の書き取りは身に付いていても、語彙力の不十分さと相まって、自分の考えや違う文章中で活用することが十分でない状況が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の書き取りについては一定の定着が見られるため、その漢字を使用した熟語や単語に多く触れることで、語彙力を高める。 学習を通して自分自身の身に付けた力を理解し、振り返ることができるようにする。 文章を書いたり、自分の考えを表現したりする力を伸ばし、決められたテーマに沿った適切な文章を書ることができる力を伸ばす。 	<ul style="list-style-type: none"> 新出漢字の学習では、漢字そのものの字形や読みを覚えるだけでなく、なるべく多くの熟語や単語を辞書などを使って調べ、例文作りに取り組み、語彙力の向上を図る。 単元の終末、学期ごとに振り返る活動を行い、一つ一つの成長を記録することで、自分のできるようになったことをいつでも見返すことができるようにする。 毎時間の授業と、単元の終末に必ず学習を振り返り、1時間、単元全体を見通して学んだことを見つけ出し、短くまとめて書いたり話したりする取り組みを行う。自分自身が身に付けた力をメタ認知できる力の獲得を図る。 行事に対する意気込みや振り返り、校長講話の要約、おすすめの本の紹介など、毎週必ず短い作文に取り組み、決められた時間や文字数の中で、記述する学習を行う。 	

	算数	<p>調領域別正答率では「数と計算」で区の平均を0.6ポイント、内容別正答率では「整数の仲間分け」「分数と小数」「分数のたし算・ひき算」で区の平均を上回った。特に「分数のたし算・ひき算」では区の平均を10ポイント上回っており、基礎的な知識や演算が定着していることが分かった。</p> <p>調領域別正答率では、特に「図形」と「変化と関係」において区の平均を大きく下回っており、題意を正しく理解し、状況を整理して考えることに課題が見られる。また評定別人数比に二極化が見られ、個々の力にばらつきが多い。</p> <p>学提出される課題やワークテストの状況を見ると、基礎的な四則演算の技能や、用語などの知識には一定の定着が見られるが、文章題の題意を捉えることや、自分自身の力で題意に沿った演算を決定する力がまだ十分に身に付いていない状況である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学年相応の計算力を身に付けることができているので、計算の反復練習だけでなく、自身で題意を捉え正しく立式する力を身に付けることができるよう指導する必要がある。 ・習熟度別指導により、算数の学習の個別最適化を進め、苦手意識のある児童には基礎的な学力の定着を、基礎的な力を習得している児童には更に力を伸ばすことを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章題では、国語の学習と並行して、問題文を正しく読み取ることに関心をかけ、問題演習に取り組むことができるよう授業を計画する。具体物が用意できるものは必ず具体物やタブレット端末を使って操作することができるよう準備し、全ての児童が題意を正しく捉えることができるようにする。 ・東京ベーシック・ドリルやタブレット端末を活用し、常に過学年の学習を振り返りながら新しい学習に取り組むことができるようにする。また、授業中は個別解決の時間を設け、自身で目標を立て、個別の目標を達成するための学習時間を設けることで達成感を味わいながら、学習に意欲的に取り組むことができるようにする。 		
音楽	<p><1学年> 音楽室での学習に全員が楽しく参加できるように、繰り返しの声掛けによるルールの徹底、リズム遊びを中心に進めている。</p> <p><2学年> 1学年で学習したことを生かして発展させながら学習内容を進めている。音楽を聴きながら意味のある身体表現を伴い、身体全体で感じ取れるような活動を進めている。</p> <p><3学年> リコーダー導入時期として、コロナ禍の状況を踏まえ、学習内容を組み替えて進めるよう計画している。基礎基本と音楽の内容を考慮し、力を付ける時期と捉えている。</p> <p><4学年> 前年度より鑑賞の学習に言語活動を組み入れた学習を積み重ねている。既習のスキルを、表現、鑑賞の両面に生かし、意欲的に取り組めるよう進めている。</p> <p><高学年> 鑑賞を中心に、よさや美しさに多く触れることで、これからの音楽学習の底力になるよう学習を進めている。その中でも、一人一人が目標をもち、自分の力を伸ばそうとする意欲が見られる。表現領域の学習では、互いの表現を認め合い、自らの表現に生かしていけるよう進めている。また、総合的な学習の時間ともリンクして活動を組み立てているところである。</p>	<p><1学年> 就学前の音楽経験の違いは顕著だが、全員が楽しんで新しい学習に取り組もうとしているため、意欲を引き出す学習活動を考えてるとともに、車いすで過ごす児童と共に、できる限り体を動かすことができる活動を組み込んだ教材開発をしていかなければならないと考えている。</p> <p><2学年> じっくりと落ち着いた学習活動が難しい場面がある。</p> <p><3学年> 全体としては歌声に自信をもち音楽を楽しんでいるが、個性が強く、自我が強かったり、個別支援が必要だったりする児童も数名いるため、集中できる時間の確保が必要だと感じる。</p> <p><4学年> 個の思いが集団の雰囲気によって消されてしまいかねない場面が時折見られる。学習の機会を確保すること、意欲を持続し向上させることができるよう、学習活動を工夫していくことが必要だと感じている。</p> <p><5学年> 全体としては意欲も音楽の力も育っているが、周りの学習意欲や状況に明らかについていくことが難しい児童がいる。個の力、個別学習計画も重要だと感じる。</p> <p><6学年> 音楽への思いや力はもっていても、発言したり表現したりすることをためらってしまう児童がいる。学級の雰囲気をさらに明るくしていく活動の導入を考えている。</p>	<p><1学年> 体の動きを伴った学習については、手遊び歌やいくつかのパターンを選んで活動できるように工夫していきたい。また、一人一人に丁寧な声掛けを繰り返し、自信をもって学習に参加できるようにする。</p> <p><2学年> グループ活動などを活用して、友達との関係性や個人の責任を体得させていく。また成功体験を積み重ねながら、学級全体の音楽の力と音楽学習への意欲を高めていくようにする。</p> <p><3学年> 一人一人の個性を大切に、スモールステップで内容を繰り返しながら支援を必要とする児童への対応をしていくようにし、誰もができるルールを作り、全員が45分間の音楽学習を充実したものにできるようにしていく。まず、やる気を引き出すために魅力的な教材開発をする。</p> <p><4学年> 互いを認め合える関係をつくるためにも、個の力を確実にしていくことを心掛けていく。</p> <p><高学年> 互いのよさを引き出し、認め、高め合える関係を築いていけるよう、時間ごとに学習の意義や目的を明確にし、一人一人が自らの目標をもってより主体的に学習に取り組めるようにしていく。</p>			

図工	<p><1 学年></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校での図工の授業に期待をもって、意欲的に取り組んでいる。 <p><2 学年></p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に活動に取り組んでいる。 ・思考や技術面で差が大きく、一斉指導が難しい場面がある。 <p><3 学年></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習規律が乱れている。(話す、聞く、活動の際の態度など) ・活動に対してはととも意欲的に取り組む様子が見られる。 ・思考や技術面で差が大きく、一斉指導が難しい場面がある。 <p><4 学年></p> <ul style="list-style-type: none"> ・発想力が豊かで、新しい表現方法や活動に興味関心が高く、授業に対して意欲的である。 <p><5 学年></p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの児童が新しい表現方法や活動に興味関心が高く、授業に対して意欲的である。 ・向上心があり、もっと上手に描きたい・作りたいという気持ちをもっている児童が多い。 <p><6 学年></p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの児童はどの活動に対しても意欲的に取り組んでいる。 ・課題は提出するが、マイペースな児童が多く、目標日に提出できない児童が見られる。 	<p><1, 2, 3 学年></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業のねらいを理解できなかったり、現在の活動内容を把握できなかったりして、自由に活動してしまい、ねらいに即した作品作りに取り組むことが難しい児童がいる。 ・思考や技術面で支援の必要な児童がいる。 ・一斉指導では活動に取り組めない児童がいる。 <p><4 学年></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えに自信がもてず、友達と同じ作品になってしまう児童がいる。 <p><5 学年></p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな表し方、材料による感じの違いなどについてあまり意識せず、じっくり取り組むことが難しい児童がいる。 <p><6 学年></p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題の提出が、締切日に間に合わない児童が見られる。 	<p><1, 2, 3 学年></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体でめあてや活動の確認をする。板書に手順を示し、今何をすべきかが視覚的に分かるようにする。 ・参考作品を提示したり、やり方を演示したりして参考にできるようにする。 ・個別指導が必要な児童には、一斉指導後に指導したり、支援員の協力を得て指導したりする。 <p><4 学年></p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞タイムを設けたり、様々な作品を全体で共有したりし、それらを参考に作品づくりに取り組むことも学習方法の一つであると伝える。その中で、自分で考えたアイデアや色遣いなどを取り入れ、自分の作品にしていくよう指導する。 <p><5 学年></p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料による違いなどについては、実際に触って試してみたり作って試してみたりするなどし、じっくりと考える時間を設定し、本番に臨ませる。 <p><6 学年></p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品提出までの日程とその日のめあてを確認し、着実に制作できるよう意識して取り組めるように支援する。 		
特支	<p>国語 個々の児童によって学習進捗状況は様々である。文字や漢字を書いたり物語を読んだりすることを好む児童が多い。だが、文章力や聞く力が十分に育っていない。</p> <p>算数 計算を得意とする児童が多く、すすんでワークシートに取り組むことができる。だが、概念形成に不十分さが見られたり、以前学習した内容を忘れてしまったりすることも多い。</p>	<p>国語 文章読解力や文章を書く力を高めることが必要である。また、字形を整えて書くことについても指導を行っていく必要がある。</p> <p>算数 四則計算ができる児童は多いが、応用問題や文章問題を苦手とする児童も多い。そのため、繰り返し取り組んだり、前時の学習を本時の学習前に復習として取り組んだりする必要がある。</p> <p>共通 個々の児童によって、発達段階や学習進捗状況の差が大きい。その中でも、個々の実態や得意不得意等に合わせた学習を設定できるようにしていく。</p>	<p>国語 行事の振り返りや週末日記、作文等、文章を書く機会を意図的に設定していく。さらに、自分が書いた文章を発表することで話す力を養ったり、質問場面を設定することで聞く力を養ったりしていく。なぞり書きを適宜取り入れ、字形を意識して書けるようにしていく。</p> <p>算数 日常生活の場面でも活用していくことができるように、具体物を操作する等、体験的な活動を充実させていく。また、学習を繰り返していくことで、一層の定着を図っていく。</p> <p>共通 個々の児童の学習進捗状況を的確に把握するとともに、小集団学習と個別学習を充実させていく。</p>		

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト、デジタルドリル等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。